

## D 氏邸訪問記(2018.4.29)

### 1. 始めに

D 氏邸訪問は昨年のゴールデンウィークの訪問以来です。今回は、最近購入したトランスの My Sonic Stage1030 とアリエナイザーミニと iPurifierAC などを持ち寄って D 氏邸のシステムを聴かせていただきました。

### 2. 試聴の経過

恒例のバーベキューをいただいた後、Jensen Imperial が鎮座するオーディオルームに移りました。D 氏邸のシステムは[以前の訪問記](#)や[前々回の訪問記](#)、[前回の訪問記](#)などを参照していただくとして、その後大きな変更はないようですが、下掲の写真のプリアンプが加わり、主に入力切替用に使用しているとのこと。



当方は、My Sonic のトランス Stage1030 とアリエナイザーミニを持参し、Mt.T2 さんが iPurifierAC を持参されました。

音源は CD とアナログで、CD は Studer725 と EMT981 で、アナログは SPU A を

装着したガラード 301 と Phasemation の PP1G を着したノッチングムのプレイヤーで再生されています。

最初に Jazz の CD をいくつか聴かせていただきましたが、Jensen Imperial のエネルギー感には圧倒されます。これを聴いておられた、同席の K 氏が最近実施されているスピーカーの調整の一部として、フェルトのテープをスピーカーの前面下に挟んで微妙に角度を上向きに調整することを実施されました。それまで、同席者からちょっと低音がだぶつき気味という指摘があったのですが、これによりそういった印象は解消して全体にすっきりとしてきました。

さらに、同席者にクラシックファンもいるということで、V 協やオーケストラもの、チェロソナタやカンタータなどのアナログを聴かせていただきましたが、演奏そのものは出来不出来があったり、盤質もよしあしがありますが、やはりエネルギー感はずごいものです。演奏としては、スークトリオのメンバーでもある、ヨゼフ・フッフロとヤン・パネンカのベートーベンのチェロソナタは、概してバリバリ弾くのが通例のこの曲を、物足りないくらいに味わい深く弾いており、Jensen Imperial はこういう表現も可能かという認識を新たにしました。

さらに K 氏持参の CDR や ST 氏持参の女性ボーカルの CD も聴かせていただきましたが、CDR の中にあったベヒスタインのピアノは、すぐにベヒスタインの音だという声もあがりました。

時間切れになろうとしていましたが、最後に持参した My Sonic のトランスの Stage 1030 とアリエナイザーミニを使ってみることにしました。最初にトランスだけを替えると、一挙に広帯域となり、奥行き感も出てきます。さらにアリエナイザーミニをトランスの下に敷くと、一音一音がくっきりとし、音像が明晰になってきます。アリエナイザーミニを良く知る K 氏も音の实在感が変わってきたとの印象を述べられました。



試みに Jazz ではどうかということで、聴かせてもらいましたが、Jazz でもいいのではないかという声もあり、中域のエネルギー感が後退し、ジャズファンには受けないのではないかという予想していましたが意外でした。

結果として、個人的には、アナログと CD の違い、アナログのカートリッジの違いより、Stage1030 とアリエナイザーミニの効果が大きいことが興味深く、これは拙宅でもカートリッジの違いより、トランスを替えた効果が大きかったという結果と一致

するものでした。

なお、Mt.T2氏にはせっかく iPurifierAC を持参していただいたのですが、適当な空きのある電源ボックスがなく、見送りとなりました。

### 3. まとめ

**Jazz** 中心にエネルギー感に満ちた再生ぶりには圧倒されましたが、広帯域トランスの Stage1030 の投入とその他のいくつかの調整で、クラシックについても **Jensen Imperial** の新たな世界を見せてくれました。

以上